



第 152 号

平成 27 年 6 月 1 日
 編集・発行
 市来農芸高校広報係
 いちき串木野市湊町 160
 TEL (0996) 36-2341
 発行責任者
 校長 本村 信一

部活動 農業クラブ

農芸生 本格始動!

慌ただしい 4 月を終え、授業や実習が本格的に始まり、昨年度から取り組んできた活動の成果を、学校内外で発揮する機会が増えてきました。5 月に行われた行事を紹介します。

春季地区大会開催

先月 7 日から 8 日にかけて、高体連の日置地区大会が行われました。県大会の前哨戦となるこの大会では、これまでの練習の成果を確かめる機会となりました。次の大会へ向けて新たな課題を見つけたことでしょうか。おもしろい結果は以下のとおりです。

☆男子バスケットボール

- (45-47 育英館)
- (39-25 串木野)



バスケットボール会場

- ☆卓球
 - ・個人ダブルス
 - 八丸(3A)・鮫島(2B)組 2位

- ☆剣道
 - ・個人戦
 - 堂崎(2A) 2回戦進出
- ☆男子バドミントン
 - ・個人ダブルス
 - 宮脇(2A)・小林(1A)組 2回戦進出



- ・個人シングルス
- 八丸(3A) 準決勝進出

- ☆陸上
 - ・女子走り幅跳び
 - 小川(2D) 優勝

農ク校内意見発表大会

先月 13 日、鹿児島県学校農業クラブ連盟各種発表大会「意見発表の部」の校内代表を選出する意見発表会がありました。

全校生徒が長期休業中に意見文の作成に取り組み、その中から各クラス 2 名ずつが選出されました。日ごろの授業や実習の中で体験したこと、考えたこと、取り組んでいることをもとに 18 名が発表しました。3 つのテーマに沿ってそれぞれの思いを熱く語っていました。発表の中から、以下の生徒が校内代表に選出されました。代表になった生徒は、今月 9 日から 10 日にかけて行われる県大会に出場します。県大会で好成績を修められるよう、さらに磨きをかけ、挑戦します。

☆区分「環境」

「SOR リターン」モデル
 中之島をめざして

☆区分「食料・生産」
 小林良介(1A)

「牛とともに生きる道」

和田涼暉(2B)

☆区分「文化・生活」

「牛との出会いがくれたもの」
 鮫島功丞(2B)



安全運転を呼びかけ

春の交通安全週間に合わせ、本校でも、2・3 年生の交通委員と剣道部、サッカー部、野球部の生徒たちが、4 日間交通安全呼びかけ活動を行いました。学校前の国道 3 号線の交差点で「交通安全」の幟を手に、ドライバーの方々へあいさつをしながら、安全運転を呼びかけました。朝の通勤、通学の時間帯の国道 3 号は交通量が多く、大型トラックも頻繁に走行していました。

本校でも自転車を使って



ボランティア活動

先月 16 日、「愛のカーネーション献血ボランティア」に生徒会役員を中心に 17 名の生徒が参加しました。会場周辺で、献血への協力を呼びかけ、176 名の協力を得ることができました。



通学している生徒が 19 名、原付を使っている生徒が 12 名います。車体検査を定期的に行い、常に安全運転を心がけるよう指導しています。

若い目

平和の第一条件は

「認め合うこと」

生活科 2 年

増田 理沙



私たちは危険な場所に行かなくても、テレビを通して戦場を見ることが出来ます。しかし、私自身、テレビで戦争や貧困で苦しむ人々の映像が流れると、ついついチャネルを変えて目をそらしてしまいます。しかし、戦場の危険など、何かを伝えようとする人がいることを受け止めて、考え、行動しなければいけないという事を、フリージャーナリストの後藤健二さんの死

を通して考えました。後藤さんが亡くなった後、報道ではモザイクのかかった画像や動画ばかりが放映され、胸を締め付けられ怖くなりました。あの映像を共有しないで、後藤さんが仕事をしている姿を共有しようという呼びかけがあることを、新聞記事を読んで知りました。

私は、平和とは戦争がなく、だれ一人として貧困に苦しむ人のいない平等な世界だと考えていました。しかし、今回の「イスラム国」の行動と世界の対応を見て、自分の考えている平和は、いつまでたっても無理なものではないかと感じるようになりました。

今の世界の対応は、悪を正

義という名の暴力で鎮めようとしているようにしか見えません。平和がどういうことなのか、わからない部分も多いのですが、相手のことを知り、認め合うことは、平和の第一条件だと思います。後藤さんの死を過去のこ

ととせず、平和を考え学び続けたいです。(平成 27 年 3 月 15 日 南日本新聞掲載)

職員コラム

農業科 宮脇勝雄

この度の人事異動で、加世田常潤高校から参りました。教科は農業で果樹を担当することにになりました。よろしくお願いたします。

私は今から二十年前、青年海外協力隊員として、アフリカのボツワナ共和国に赴任しました。現地の園芸組合での野菜作りが私に課せられた任務でした。ボツワナは国土の大半をカラハリ砂漠に覆われ、とにかく雨がほとんど降らない土地柄です。

当時二九歳の私は自分の無力さをまざまざと見せつけられました。農場の経営は

おろか、自分の生活、とりわけ食べるのが必死でした。一輪車を押して共同の井戸で水を汲み、煮沸して飲料水を確保します。電気がないため、灯油のランプで夜を灯します。冷蔵庫がないので、食べ物貯蔵をどうすればいいのか、食べるのが切実な問題でした。たくましく生きる現地の人々に生きる術を請いながら生活をしたのを覚えていきます。

そんな不便な生活を二年間経験したことが、農業教員としての私の原点です。農業は私たちの命をつなぐ尊い産業であり、永永と食文化を築いてきました。そんな大事な農業が廃れることのないように、次の世代に伝えていくことが私たちの使命だと思います。

私は豆腐作りやそば打ち、段ボールで作る燻製など市来農芸高校の生徒たちとスローライフ・スローフードを楽しみたいと思っています。



6 月のおもな学校行事

1 日	(月)	農業技術検定・生徒総会
9 日	(火)	県農業クラブ各種発表大会
10 日	(水)	〃 (於: 県立農大)
11 日	(木)	文字力テスト②
15 日	(月)	家庭クラブ総会
18 日	(木)	校内農ク鑑定競技会
23 日	(火)	中高連絡会
26 日	(金)	期末考査 (~ 7 / 1)

PTA総会へのご出席

ありがとうございます

先月 15 日に開催された総会には多くの保護者の皆様に参加してくださいました。総会後は選出された学級や地区の代表の方が集まり、理事会も開かれました。新 P T A 会長のもと、新たな体制で本校の教育活動を支えてくださることに感謝申し上げます。一年間、よろしくお願

いします。平成 27 年度 P T A 役員 (敬称略)

会長 吉永 一成
副会長 小島 朋巳

吉村 加代美
野田 清子

南 直哉
濱門 礼子

日高 清美

監事